



Title	パブリックとは何か
Author(s)	藤川, 隆男
Citation	パブリック・ヒストリー. 2023, 20, p. none
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/91227
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

本誌は、本号において記念すべき創刊 20 号を迎えました。本誌の名称である『パブリック・ヒストリー』は、20 年前に、大阪大学の教員と大学院生が投票によって選んだ名称です。欧米に追随していればよい時代が終わり、西洋史学が将来どのような方向に進めばよいかを検討した時に、導き出した答えがこのタイトルを冠した雑誌でした。「歴史の研究、歴史への思索を、もう一度改めて社会のなかに投げ返すことで、新しい刺激を汲み」とり、新しい道を模索してきました。また、現在も『パブリック・ヒストリー』が、学問と社会をつなぐ新しい試みとして、現代と将来に大きな貢献することを目指している点は変わりません。

2003 年という早い時期に、『パブリック・ヒストリー』という概念を、本誌は日本の学問の場に導入しました。ようやく日本でも、ヨーロッパでの発展に追随するかのようになり、2019 年にパブリック・ヒストリー研究会が発足し、パブリック・ヒストリーを包括的に扱った『パブリック・ヒストリー入門』も刊行され、本格的にパブリック・ヒストリーが論じられる時代がやってきました。そうしたなか、本誌はもう一度原点に立ち返り、パブリック・ヒストリーのパブリックという概念が何を意味するのか。それを再検討するために、新たに継続的な特集として「パブリックとは何か」を始めることにしました。

パブリックについては、第 17 号において拙稿「「パブリック・ヒストリー」とは何か。」においても扱ってはいますが、それを具体的な歴史的な文脈において、詳しく検討していきます。特集の第 1 回を記念して、本誌の創刊時に InDesign の導入に多大な貢献をし、基本的な作成マニュアルを作った弘前大学の中村武司さんに、「イギリス史研究におけるパブリック・ミーティング：研究の現状と課題」を寄稿していただきました。歴史的コンテキストに位置づけられた「パブリック」を、パブリック・ミーティングを通して、ご覧ください。